

## 地域における子育てメイトの活動 II

～子育て支援を中心に～

A Study on Community Welfare Activities of the Child Care's Mates

— Centering on the Child Care Support —

野 口 伐 名

Isaaki Noguchi Ph.D

### I 青森県独自の子育て支援制度「子育てメイト」

本稿は、前号（社会福祉学研究第三号）に掲載した「地域における子育てメイトの活動 I ～子育て支援を中心に～」の続報である。子育てメイトは、平成9（1997）年8月に「子育てメイトとして青森県の子どもたちの健やかな成長のために」創設された青森県独自の子育て支援制度である。この青森県独自の子育て支援制度「子育てメイト」は、青森県の子育て支援制度であると共に、地域全体で子育てを支援する「身近な子育てサポーター」であり、正式な名称は「青森県子育てメイト」である。青森県が、この青森県独自の子育て支援制度として「子育てメイト」を創設した事由は、具体的には、今日の次の三つの深刻な「家庭の教育力の低下」に因っている。

1. 近年の家庭が「都市化や核家族化の進行により、地域や親戚等からも孤立しがちな状況」にあると共に、「家庭や地域の子どもをめぐる問題は複雑、多様化」していること。
2. その結果として、「子どもに対する虐待の問題が顕在化する等」に見られるように、「子どもが思うように育たないと悩んだり、不安を抱えたまま、身近に相談できる相手もない家庭が、子どもに不適切な対応をしてしまい、子どもの健やかな成長に良くない影響を及ぼす事例が増えて」いること。
3. そして、「このような現状のもと、地域ぐるみで子育てを支えることが、今求められて」いること。

このように青森県独自の子育て支援制度「子育てメイト」は、「家庭や地域の子どもをめぐる問題は複雑、多様化」（高坂恒子氏）をもたらしている中で、これらの三つの今日の深刻な「家庭の教育力の低下」を解決して、青森県の子どもたちの健やかな成長のために、青森県健康福祉部こどもみらい課を担当部課として、地域全体で子育てを家庭支援する、或いは親支援する「身近な子育てサポーター」（青森県子育てメイト）として創設されたのである。このことは、当時の青森県知事木村守男氏が、平成9（1997）年8月4日の「子育てメイト」の委嘱式において、青森県内各市町村の代表67名の一人ひとりに「子育てメイト」の委嘱状を手渡した後に、「虐待の未然防止のため各家庭に心を砕いて接触し、解決の糸口をつかんでほしい」と挨拶して、子どもの虐待を未然に防ぐ、「子育てメイト」の「育児の不安解消」に大きな期待を寄せていることから容易に知れるであろう。しかしながら、この「少子化が進む中、地域の親の手助けをしてきた」<sup>(4)</sup>子育てメイトは、「二〇〇七（平成十八）年度から（青森）県が財政支援を廃止し『地域のメイト』として活動する」とは言え、（青森）県主導で1997（平成9）年8月に配置され、若い母親の育児相談に乗る『〔青森県〕子育てメイト』は、地域全体で子育てを支援する青森県の「身近な子育てサポーター」として大きく期待されながらも、「子育てメイトは、

地域社会にとって大きな支えとなっている（三村知事）」<sup>(5)</sup>にもかかわらず、極めて残念なことであるが、事実上、廃止されたのである。そこで、この「地域社会にとって大きな支えとなっている」青森県独自の子育て支援制度「子育てメイト」について、この小論では、「地域における子育てメイトの活動」の問題設定の下に、「子育て支援を中心に」、青森県子育てメイトの目的と役割、子育てメイトの子育て支援の活動方法とその内容、子育てメイトの子育て支援活動の実際などの三つの課題を設定して、この地域全体で子育てを支援する青森県独自の子育て支援制度である子育てメイトの約十年強に亘る「身近な子育てサポーター」としての活動について、紙幅の関係で前号（社会福祉学研究第三号）と本号（社会福祉学研究第四号）の二回に分けて具体的に考察を試みたものである。従って、具体的に、これら三つの研究課題のうち、前号の「地域における子育てメイトの活動Ⅰ～子育て支援を中心に～」においては、この小論の問題意識として「Ⅰ 青森県独自の子育て支援制度『子育てメイト』を、そして三つの研究課題のうち「Ⅱ」の「青森県「子育てメイト」の目的と役割」及び「Ⅲ」の「子育てメイトの子育て支援の活動方法とその内容」においては、子育てメイトの「相談支援」の「家庭訪問」の問題のみを取り扱い考察を試みている。従って、本稿においては、「Ⅲ 子育てメイトの子育て支援の活動方法とその内容」の子育てメイトの「家庭訪問」と共に「相談支援」である「親・親子との交流」及び「その他」の問題から考察を試み、「Ⅳ」の「子育てメイトの子育て支援の活動の実際」、「Ⅴ」の「子育てメイトから子育て支援員の活動へ」の問題を考察することになる。

## I 青森県独自の子育て支援制度「子育てメイト」（前号）

## II 青森県「子育てメイト」の目的と役割（前号）

## III 子育てメイトの子育て支援の活動方法とその内容

本節においては、「子育てメイトの子育て支援の活動方法とその内容」の課題設定の下に、子育てメイトの「活動や支援のあり方」について、より具体的には、「子育てメイト活動マニュアル（平成11年2月・平成15年3月）」に従って、大きく子育てメイトの「相談支援」と「関係機関等の連絡支援」及び「その他」の三つに分け考察を試みている。これらの三つの研究課題のうち、子育てメイトの第一の「相談支援」については、「家庭訪問」と「親・親子との交流」及び「その他」に分けて考察を試みているが、子育てメイトの「家庭訪問」による「相談支援」支援においては、前号（社会福祉学研究第三号）の「地域における子育てメイトの活動Ⅰ～子育て支援を中心に～」において、より詳細に考究を試みているので、本節においては、子育てメイトにおける「相談支援」の第二の問題である「親・親子との交流」の問題から考察を試みることにしたい。

### 1 子育てメイトの「相談支援」

#### (1)「家庭訪問」支援（前号参照）

子育てメイトの「相談支援」の第一は、「家庭に入り込んでいく仕事だけに、地域的には困難を伴うこともある」、子育てメイトの「家庭訪問」による支援である。この子育てメイトの「家庭訪問」支援が子育てメイトの「相談支援」の第一の「基本的役割と捉え」られているのは、「子育てメイトは、主に未就学児童を持つ家庭を対象として、子育てについての不安や悩みの話し相手になること」によっ

て、「子育て支援を効果的なものとし、家庭の子育て力を向上させること」になるからである。この子育てメイトの「家庭訪問」による活動支援について、「子育てメイト活動マニュアル(平成11年2月)」は、「日頃の心かまえ」、「家庭訪問」支援の具体的方法、「話の聞き方」や「面接のポイント」などの三つの具体的方法を挙げているが、詳細については前号を参照して欲しい。

## (2)「親・親子との交流」支援

子育てメイトは、「子育てに関する不安や悩みを気軽に話し合える相手として、子育て経験豊かな方を(青森)県知事が依頼して」いる青森県民の「身近な子育てサポーター」である。子育てメイトは、「子育て経験豊かな方を(青森)県知事が依頼して」とは言え、青森県当局に、子育てメイトの『活動方法や役割などをもっと具体的に教えて欲しい』という意見や要望が寄せられ、それは、「家庭に入り込んでいく仕事だけに、地域的には困難を伴うこともあるので」、極めて自然な成り行きである。「子育てメイトは、法律に定められている民生・児童委員及び主任児童委員とは異なり調査権限や指導権限」<sup>(26)</sup>を有していないからである。

この第二の子育てメイトの「相談支援」としての「交流広場等」における「親・親子との交流」は、「地域の状況により、個別の訪問が難しい場合や多くのお母さんたちと交流を持ちたい場合」の「活動方法」である。この「交流広場等」における「親・親子との交流」の具体的な活動「内容は、地区の公民館などを利用してお母さんたちとおしゃべりしたり、子どもたちと一緒に遊んだりして交流を深め」るものである。子育てメイトが「お母さんたちとおしゃべりしたり、子どもたちと一緒に遊んだりして交流を深める」「交流広場等」については、平成11年2月の『子育てメイト活動マニュアル』には、より具体的に、「公園等の遊び場や地域の公共施設等(福祉センター、団地集会所等)を利用し、……」、そして「地区の公民館、集会所、保育所などを会場にして」とあることから、「交流広場等」の「等」、そして「地区の公民館などを利用して」の「など」は、公園等の遊び場や地域の福祉センター、団地集会所、保育所などを指しているであろう。そしてこの「親・親子との交流」における子育てメイトの「活動や支援のあり方」について、平成15年3月の「子育てメイト活動マニュアル」は、「交流広場等での留意事項について」<sup>(38)</sup>において、「地域の状況により、個別の訪問が難しい場合や多くのお母さんたちと交流を持ちたい場合に、交流広場等の活動方法が」とあると、次のように記述している。

「地域の状況により、個別の訪問が難しい場合や多くのお母さんたちと交流を持ちたい場合に、交流広場等の活動方法があります。内容は、地区の公民館などを利用してお母さんたちとおしゃべりしたり、子どもたちと一緒に遊んだりして交流を深めます。参加を呼びかける方法は、チラシを作ったり、町会の掲示板や回覧板を利用したりします。この方法は、集団で自由参加なので相手に拒否されることもなく、自然な形で顔見知りになり、お母さん同士の交流も図ることもできます。しかし、場所の確保や子育てメイト同士の連携がとられていないとうまくすすめることが難しいので、第一章の8で説明している『市町村子育てメイト連絡協議会』の会議等を通じて、子育てメイト同士、また、市町村担当者とも連携を密にして実施してみましよう。また、『子育てメイト組織活動支援事業費補助金』の活用も検討してみましよう。」(『子育てメイト活動マニュアル(平成15年3月)』)

この子育てメイトの地域における「親・親子との交流」支援の活動の実際については、平成19(2007)年3月に青森県健康福祉部こどもみらい課が作成した『平成18年度青森県子育てメイト(研修会活動

事例報告集)』の中に、青森県八戸市の柏崎公民館を活用した「親・親子との交流」活動「柏崎すくすくサロン」について、次のように具体的に紹介されている。「柏崎すくすくサロンは、柏崎地区メイトが中心となり、平成14年5月に発足」した「親・親子との交流」活動である。

「年間のサロンの開催回数は10回です。柏崎公民館を会場に、毎月第4月曜日の10時から12時まで開催しています。参加者は、平成17年度は、親子で455名、平成18年度は336名の参加がありました。日程やプログラムについては、メイトを『企画担当』『おやつ担当』に分け、ローテーションで役割を分担しております。スケジュールは、自由遊び、保健師さんのお話、絵本の読み聞かせ、その日のテーマ、おやつ、フリートーク（情報交換、育児相談等）となっております。その日のテーマは、月別に決まっており、例えば、4月は色紙に鯉のぼりと兜をつくろう、9月はお月見、11月はクリスマス、2月は雛祭りなどとなっております。」（八戸市・中屋敷幸子さん）

この「柏崎すくすくサロン」の「親・親子との交流」活動において、子育てメイトは、「メイトを『企画担当』『おやつ担当』に分け、ローテーションで役割を分担して」いる。そして「柏崎すくすくサロン」の「親・親子との交流」活動における「参加者の意見」について、次のように紹介している。

「参加者の意見としては、①メイトがたくさんいるので安心できる、②親同士が友達になれる。コミュニケーションがとれる。③保健師の話を聞いたり、個別相談ができる。④メイトと一緒におやつを食べながら話ができるので楽しい。⑤<sup>まゆだま</sup>繭玉、七夕、お月見など家庭で出来ないことが、サロンで出来るので楽しいなどの意見がありました。」（中屋敷幸子さん）

子育てメイトが参加者の意見に「①メイトがたくさんいるので安心できる、④メイトと一緒におやつを食べながら話ができるので楽しい」とあるように、子育てメイトは、「子育てに不安や悩みを抱える地域のお母さん方の身近で気軽な相談相手として（佐藤庸子氏）」、極めて高く評価されているのである。この「柏崎すくすくサロン」の「親・親子との交流」活動については、参加者が、「②親同士が友達になれる。コミュニケーションがとれる。③保健師の話を聞いたり、個別相談ができる。⑤<sup>まゆだま</sup>繭玉、七夕、お月見など家庭で出来ないことが、サロンで出来るので楽しい」など高く評価しているように、「柏崎すくすくサロン」（「親・親子との交流」活動）が「地域の状況により、個別の訪問が難しい場合や多くのお母さんたちと交流を持ちたい場合」の「活動方法」として十二分に機能していることは容易に理解できるであろう。

### (3) 地域の中での交流支援

第二の子育てメイトの「相談支援」として「家庭訪問」と「親・親子との交流」と共に挙げられている「相談支援」における「その他」の活動は、子育てメイトが地域の「道路、スーパー、バス停等地域の中で交流を図った場合」で、そこには「公園等で遊んでいる親子等との交流を図った」場合も含まれている。この子育てメイトの「道路、スーパー、バス停」、「公園等で遊んでいる親子」などに「親子に声をかけ、会話」の機会を持つ「地域の中で交流」活動は、①「日頃から、地域の人たちとの交流を通し、子どもたちの情報を得る」こと、②「地域において、孤立化している家庭はないか、相談を必要とする家庭はないか」などの情報を得て、「子育てについて不安や悩みがある時は、速やかに相談・助言」情報を得ることができること、③「各市町村ごとあるいは地区ごとに異なる地域の特性やニーズに応じた活動を行うこと」が出来ること、など子育てメイトの「地域の子育て支援」の極めて重要な活動方法である。このことは、青森県が青森県内全域に子育てメイトを3,000人を配置した目的に

ついて、「近年、都市化や核家族化の進行により、家庭が地域や親戚等からも孤立しがちな状況にあり」、「その結果、よくわからないまま、…子どもに不適切な対応をしてしまい」、「子どもの健やかな成長に深刻な影響を及ぼしている」と、次のように指摘していることから容易に知ることができよう。

「近年、都市化や核家族化の進行により、家庭が地域や親戚等からも孤立しがちな状況にあり、身近に相談できる相手もなく、子どもが思うように育たないと悩んだり、不安を抱える母親等が増え、その結果、よくわからないまま、結果的に子どもに不適切な対応をしてしまい、子どもの健やかな成長に深刻な影響を及ぼす事例が増えています。」(青森県『子育てメイト活動マニュアル(平成11年2月)』)

核家族化の進行が子どもの健やかな成長に深刻な影響を及ぼしている問題点については、①母親の就労の増加により、地域社会の連帯を弱め、家族の孤立化を生み出していること、②都市化による地域社会の断絶により、母親が相談相手を失い、孤立しがちであること、③地域社会の相互扶助の精神が失われたこと(地域共同体の破壊)。④住環境の悪化により、子どもが集い仲間を作る、遊び場の減少をもたらしたこと。⑤遊び場の減少と共に、遊び仲間との触れ合いの機会を失うことになったこと。⑥塾通い、お稽古ごと等、加えてテレビ視聴が生活の中心を占めることによって、子どもの学習が先に立ち、遊び友達が少なくなったこと、などが一般に、指摘されている。核家族化の問題は、家庭の地域社会との触れ合いの減少をもたらし、育児や子育ての知恵が地域や仲間から伝承されなくなって、育児や子育てに深刻な問題を投げ掛けていることにある。

この子育てメイトの地域における「相談支援」としての「その他」の活動「地域の中で交流」支援の活動の実際については、平成11(1999)年2月に青森県健康福祉部児童家庭課が作成した『子育てメイト活動マニュアル』の中で、子育てメイトの青森に転勤してきた親子の「公園デビュー」への対応について、次のように具体的に実践記録されている。

「また、若いお母様方は、公園デビューといって、小さい子どもを公園で遊ばせながら、お母様達と親しくなるとい話を聞いておりましたので、『どの辺の公園で何時ごろ遊ばせますか』と聞いて参りまして、私もその公園に行き、一緒にお話の仲間に入れていただいております。」(「子育てメイトをして想うこと」青森市子育てメイト田辺法子氏)(『子育てメイト活動マニュアル(平成11年2月)』)

このように子育てメイトが、青森には転勤で来て「小さい子どもを公園で遊ばせ」ている、とかく「家庭が地域や親戚等からも孤立しがちな」「若いお母様達」と、「私もその公園に行き、一緒にお話の仲間に入れていただいて」、「フレンドリーな相手として、相談を受けたり、助言をしたりなどの子育て支援をして」いることは、子育てメイトの地域における「相談支援」としての「その他」の活動「地域の中で交流」支援の活動として高く評価することができるであろう。

## 2 子育てメイトの「関係機関等の連絡支援」

ここでは、「子育てメイトの子育て支援の活動方法とその内容」の課題設定の下に、子育てメイトの「関係機関等の連絡支援」について考察を試みて見ることにしたい。この子育てメイトの「関係機関等の連絡支援」は、具体的には、「保護者等の子どもに対する接し方が不適切であったに、相手から依頼されて関係機関に連絡した場合」などを指している。子育てメイトのこの「関係機関等の連絡支援」は、『平成14年度子育てメイト活動マニュアル』によれば、子育てメイトの「基本的役割」として、子育てメイトは、「主に未就学児童を持つ家庭を対象として、子育てについての不安や悩みの話し相

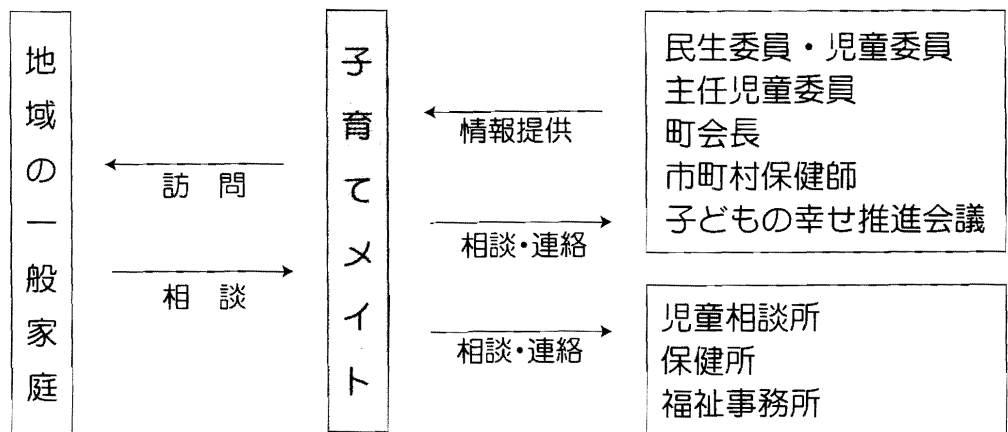
手になること」と共に「また、その相談内容によっては児童相談所、保健所、福祉事務所等関係機関につなげること」にあると次のように位置づけられている。

「子育てメイトは、主に未就学児童を持つ家庭を対象として、子育てについての不安や悩みの話し相手になること、また、その相談内容によっては児童相談所、保健所、福祉事務所等関係機関につなげることが基本的役割となります」（『子育てメイト活動マニュアル（平成15年3月）』）

このように子育てメイトの「基本的役割」の一つである「関係機関等の連絡支援」については、『子育てメイト活動マニュアル（平成11年2月）』には、子育てメイトが「相談活動をしていく中で、難しい課題等、調査や指導を必要する場合は、地域の民生・児童委員、主任児童委員、市町村、児童相談所、保健所、福祉事務所等へ連絡するようお願いいたします。また、民生委員などと連携して、必要な支援を行うこともあります」と教示し指導している。

とすれば、子育てメイトの「関係機関等の連絡支援」と言う時の「関係機関等」とは、具体的には、地域の民生・児童委員、主任児童委員、市町村保健婦、児童相談所、保健所、福祉事務所などを指している。そして子育てメイトが「関係機関等の連絡支援」をする際の相談活動として、保護者の「その相談内容によっては」或は「相談活動をしていく中で」と言う時の「相談内容」とは、「メイト自身の経験等で対応困難と思われる問題」を意味し「相談活動」とは、子育てメイトが「相談活動をしていく中で、難しい課題等、調査や指導を必要する場合」を指している。何故なら、子育てメイトの活動条件として、「子育てメイトは、法律に定められている民生・児童委員及び主任児童委員とは異なり調査権限や指導権限」がないからである。この子育てメイトの活動条件としての「関係機関等の連絡支援」について『子育てメイト活動マニュアル（平成11年2月）』は、その「第1章 子育てメイト訪問支援事業について」の「3. 子育てメイトの役割について」の中で、子育てメイトと「関係機関等」の関連について、「その相談内容により、民生・児童委員、主任児童委員、児童相談所、保健所、福祉事務所、市町村保健婦等連絡します」と、次のように子育てメイトに図示して教示し指導している。

「(4) メイト自身の経験等で対応困難と思われる問題は、相談者の了解を得て（虐待が疑われる事例にあってはこの限りではありません）、その相談内容により、民生・児童委員、主任児童委員、児童相談所、保健所、福祉事務所、市町村保健婦等連絡します。



この地域における子育てメイトの「関係機関等の連絡支援」の活動の実際については、平成11（1999）年2月に青森県健康福祉部児童家庭課が作成した『子育てメイト活動マニュアル（平成11年2月）』の中で、子育てメイトの「関係機関等の連絡支援」について、次のように具体的に実践記録されてい

る。弘前市の子育てメイト大柳セツ氏は、子育てメイトの「関係機関等の連絡支援」の子育て支援活動を、「少しずつ広がる輪に励まされて」と題して、次のように報告している。

「私の住んでいる町会は204世帯あり、未就学児童のいる家庭は67世帯あります。民生委員さんの協力を得て、一人で訪問しています。町会には、砂場、滑り台、ぶらんこなどがある遊園地は2ヵ所あります。暖かい季節には、親子が何組もおしゃべりしたり、子ども達を遊ばせているのをよく見かけましたが、寒い季節には屋内の遊び場が欲しいというお母さん方の要望がありました。民生委員さんの提案で、団地の集会場があるのだから、親子で集まって子ども達を思いっきり遊ばせてやればということで、町会の役員会でお願いしたところ、町会長さんはじめ、他の役員の方にも賛成していただき、昨年の9月から第3月曜日に集会を開いています。活動費の援助もいただき、子ども達のおやつ、折り紙代に充てています。若いお母さんより離乳食のことが知りたいと要望があり、10月には保健婦さんにお話をお願いしました。」(『子育てメイト活動マニュアル (平成11年2月)』)

この子育てメイト大柳セツ氏の活動報告は、「寒い季節には屋内の遊び場が欲しいというお母さん方の要望」に応えるために、「民生委員さん」と「町会長さん」の協力を得ることによって、「団地の集会場」を、①「親子で集まって子ども達を思いっきり遊ばせ」る居場所として、②そして子育てメイトや保護者の「集会」や「保健婦さんにお話(離乳食のこと)をお願い」するなど「研修」の場として、③更には「活動費の援助もいただき」、子育てメイトの「関係機関等の連絡支援」がどんなに必要であるかを教示している。この子育てメイトの「関係機関等の連絡支援」の活動の実際とその重要性について、青森県階上町の子育てメイト斎藤由記氏は、「自然な交流をめざして」の中で、「私の活動は、無理せず、ともに悩みを共有できる仲間として、1つ1つともに克服し、必要であるならば関係機関との連携を図り、一人の子どもと一人の母親の役に立ちたくて、その後のケアにもお手伝いできるよう努めていきたいと思います」と述べ、青森市北赤坂町会長で地区社協会長でもある杉山敏夫氏は、「町会長としての協力」の中で、子育てメイトの「関係機関等の連絡支援」について、子育てメイトが子育て支援に戸惑うことがないように、「地区社協会長の立場からも、我が地区だけは子育てメイトの方達の尊い労作業を支援しなければならないと考え、地区児童・民生委員、主任児童委員、子育てメイトの合同懇話会を開き、地区社協は子育てメイトの活動に全面支援を約束した」と、次のように報告している。

「戸山団地連合会10町会に11名の子育てメイトが任命され、当町会にも2名が任命された。正直言って、当初は地域の民生・児童委員、主任児童委員のように統一された組織のもとで活動することなく、戸惑うことが多かったようだ。町会でもその支援には消極的な点が見受けられた。このままでは子育てメイトの目的が達成されないと感じていた私は、地区社協会長の立場からも、我が地区だけは子育てメイトの方達の尊い労作業を支援しなければならないと考え、地区児童・民生委員、主任児童委員、子育てメイトの合同懇話会を開き、地区社協は子育てメイトの活動に全面支援を約束した。」(『子育てメイト活動マニュアル (平成11年2月)』)

この青森市北赤坂町会長・地区社協会長杉山敏夫氏の活動報告「町会長としての協力」は、杉山敏夫氏の「地区社協は子育てメイトの活動に全面支援を約束した」と言う極めて頼もしい言葉が示唆しているように、子育てメイトの「関係機関等の連絡支援」が効果的に機能するためには、町会長・地区社協会長の協力が欠かせないことを教えている。そして、弘前市健康福祉部児童家庭課は、「弘前市における地域の子育て支援」の中で、子育てメイトが「全地域で子育てメイトが孤立することがな

く活動ができるよう」になるためには、「子育てメイト・民生委員（特に主任児童委員）を核に地域の子育て支援ネットワークづくりを進め」ることが必要不可欠であると、福祉行政の立場から次のように報告している。

「弘前市では、平成9年3月、弘前市児童育成計画～ひろさきワラハンド未来21～を作成し、子育ての支援策の充実を図るうえで、地域社会の養育力や教育力の重要性をうたっています。地域での子育て支援の具体策を計画するなかで、子育てメイトの訪問支援事業もその1つと位置付け、県の設置要綱を踏まえながら、子育てメイト・民生委員（特に主任児童委員）を核に地域の子育て支援ネットワークづくりを進めています。平成9年度は、主に、子育てメイト設置の周知とその役割を子育てメイトや地区の民生委員・町会役員等に説明、顔合わせを兼ねた研修会で事業の理解と協力を促す活動を行いました。平成10年度からは、23地区民生委員協議会毎に子育てメイトの連絡員を配置（39名）、定例会議を年3回開催、関係機関も同席して、情報交換や話題提供、事業の運営や活動支援などの検討を行っています。関係機関の参加も主任児童委員、保健婦、民生委員の児童福祉専門委員会と回を重ねるごとに増えています。また、昨年度から年1回、民生委員の児童福祉専門部会と子育てメイトの合同研修会を開催、地区民生委員連絡協議会の定例会議（毎月開催）にも、毎回子育てメイトや子育て支援に関する情報を提供、関係機関への理解と協力をお願いしています。」（『子育てメイト活動マニュアル（平成11年2月）』）

弘前市健康福祉部児童家庭課は、子育てメイトが「全地域で子育てメイトが孤立することがなく活動ができるよう」になるためには、「子育てメイト・民生委員（特に主任児童委員）を核に地域の子育て支援ネットワークづくりを進め」ることによって初めて、「各地域にあった支援を行い、社会参加型の地域に根付いた活動をめざす」ことが可能であると考えているのである。なお弘前市健康福祉部児童家庭課は、子育てメイトの「関係機関等の連絡支援」については、子育てメイトの「PR用チラシ」において「子育ての不安や悩みを地域の子育てメイトがサポートします」ので、「子育てメイトへの連絡は、お住まいの地域の主任児童委員の方が取り次ぎを致します」とPRを行っている。

更に青森県平内町の本堂順子氏は、子育てメイトの活動報告の中で、子育てメイトの「関係機関等の連絡支援」の活動の事例として「支援センター、及び母子保健の健康診査の手伝い」について、次のように報告している。

「私達の活動は、年2回の会合を持ち、各地域での情報交換や支援センター、及び母子保健の健康診査の手伝いをしています。……次に、支援センターでの手伝いでは、月毎に送られてくる支援センターだよりを見て、行事のある時はお手伝いに伺って、良いか連絡を取って手伝いに行っています。利用者も少なく、手伝ってもらってもいいのですが、遊びがてらにどうぞ、という職員の言葉に気軽に掛かっています。支援センターでは、学童保育、預り保育、親子保育体験、電話相談などが行われています。また、母子保健、健康診査の手伝いですが、町内全ての乳幼児が対象なので、自分の担当地区以外の親子との触れ合いができます。乳児健康診査は、町立病院で行われます。健診と一緒に連れてきたお兄ちゃんやお姉ちゃんを健診している間、遊んであげたり、スムーズに行われるように赤ちゃんの着脱を手伝ったり、保健師さんのお話が終わるまで、赤ちゃんを抱っこしたりして、安心して相談できるよう配慮しています。幼児健診は、集まる子どもが多いので、青少年ホームで行われます。子ども達の衣服の着脱や身体、身長、体重の測定を手伝っています。また、待ち時間を利用して、絵本やブロック等で遊んであげています。」（『平成18年度 青森県子育てメイト 研修会活動

## 事例報告集』)

ここに言う「支援センター」は、東和保育園に併設され、子育てサークルの育成・支援をている平内町地域子育て支援センターである。この地域子育て支援センターや母子保健の健康診査（乳児・幼児健診）などにおける子育てメイトの「手伝い」は、子育てメイトが本当に「地域社会にとって大きな支えとなっていること」を示していよう。

このように子育てメイトの「関係機関等の連絡支援」は、青森県健康福祉部児童家庭課長音喜多誠氏の言葉を借りれば、『「相談、支援」という、人が人に関わることには、相手の応答により十人十色の対応が必要となり、どんな場合も大変な仕事である」ので、「子育てメイトが円滑かつ効果的に活動できるよう」（『平成10年度子育てメイト活動マニュアル』はじめに）になるために必要不可欠な相談支援活動となっているのである。

## 3 子育てメイトの「その他」の「活動や支援のあり方」

この子育てメイトの「その他」の「活動や支援のあり方」については、「児童虐待が疑われるような場合」や「住民のプライバシー保護」など問題が考えられるが、ここでは、特に深刻な問題である「児童虐待が疑われるような場合」を取上げ、「住民のプライバシー保護」は、紙幅の関係から問題の指摘をするだけに留めたい。

近年、「子どもに対する虐待の問題が顕在化」してきている。「子育てに不安や悩みを抱えたまま、身近に相談する相手もなく、子育てに過大な負担感を感じている家庭が増えてきて」、「子どもに不適切な対応をしてしま」うからであろう。それ故に、この深刻な児童虐待の問題は、「子育てメイトとして青森県の子どもたちの健やかな成長のために」は、決して避けて通れる問題ではないのである。この地域における子育てメイトの「児童虐待が疑われるような場合」の活動の実際については、『平成10年度子育てメイト活動マニュアル（平成11年2月・青森県健康福祉部児童家庭課）』の中で、子育てメイトの「児童虐待が疑われるような場合」の「関係機関等の連絡支援」について、次のように具体的に実践記録されている。青森県階上町の子育てメイト斎藤由記氏は、「自然な交流をめざして」の中で、子育てメイトの「児童虐待が疑われるような場合」の子育て支援活動を、次のように報告している。

「決して虐待というのは、特別なことでなく、いつでも誰にでも起こりえ得るということを、地域みんなが知らなければいけないし、子育ては、親を含めた地域みんなの協力が大切であるということを。いろいろな話の中の1つとして、虐待と騷の区別など普段井戸端会議の中で話題にしたりします。メイトだけでなく、地域みんなで互いにいい時も悪い時も、それぞれがオープンに何でも話をすることができ、孤立しない、また、孤立させないよう努力することも。私自身、学校や地域の行事に積極的に参加をし、できるだけ多くの方々と交流を図りながらお勉強をさせていただいております。」（『子育てメイト活動マニュアル（平成11年2月）』）

この子育てメイト斎藤由記氏の児童虐待に関する活動は、児童虐待は決して「特別なことでなく、いつでも誰にでも起こりえ得る」ことを、「地域みんなが知らなければいけないし」、「虐待と騷の区別など」、子育てメイトが「相談活動をしていく中で、難しい課題等」の幅の広い子育て支援の取り組みについて今求められていることを示している。

従って、子育てメイトの「その他」の領域における「活動や支援のあり方」としての、「住民のプ

ライバシー保護」の問題を含めて、今こそ、子育てメイトは、特に「児童虐待が疑われるような場合」のように、青森県健康福祉部こどもみらい課長佐藤庸子氏の言葉を借りれば、子育てメイトの「熱意と創意工夫により、当初の家庭訪問から子育ての広場づくり等その幅が広がってきており」、「それぞれの地域の状況に応じた子育て支援の新たな取り組みを更に展開して（佐藤庸子氏）」いけるように、そして信頼される子育てメイトになるためにも、地域の子育て支援活動における資質の向上を求められているのである。

#### IV 子育てメイトの子育て支援の活動の実際

平成18（2006）年9月8日付の陸奥新報は、子育てメイトの中弘南黒ブロック研修会が弘前市総合学習センターにおいて開催され、子育てメイトの活動報告を通して「日ごろの活動を見詰め直した」ことを、次のように報じている。

「県子育てメイト研修会が四日、弘前市末広四丁目の弘前市総合学習センターで開かれ、中弘南黒ブロックから参加した子育てメイト五十一人が研修会や活動報告を通じて日ごろの活動を見詰め直した。研修会は県弘前児童相談所が主催。子育てメイトが一九九七年にできたのと同時に県内六ブロックごとに毎年一回開かれている。この日は……三村知事も出席し、子育てメイトの中道幸子さん（弘前市）、丹羽英子さん（黒石市）がベビーサークル、講演会などでの託児所設置、子育て情報誌の作製など普段の活動を報告をした。三村知事は『子育てメイトは、地域社会にとって大きな支えとなっていることを感じた』と激励した。」（平成18（2006）年9月8日付陸奥新報）

この中弘南黒ブロックの子育てメイト研修会において、「ベビーサークル（中道幸子さん）、講演会などでの託児所設置（丹羽英子さん）、子育て情報誌の作製（中道幸子さん）など普段の活動を報告をした」弘前市の子育てメイト「中道幸子さん」と黒石市の子育てメイト「丹羽英子さん」は、この「平成18年度青森県子育てメイト研修会（平成18年9月4日〔水〕・弘前市総合学習センター）」において、「事例発表」を行なった「弘前市子育てメイト連絡協議会長中道幸子氏」と「黒石市子育てメイト連絡協議会長丹羽英子氏」の両氏である。中道幸子と丹羽英子両氏の子育てメイトの活動報告の内容について陸奥新報は、「ベビーサークル、講演会などでの託児所設置、子育て情報誌の作製など普段の活動を報告をした」と要点のみを報じているが、幸いなことにこの中道幸子と丹羽英子両氏の事例発表の詳細については、「平成18年度 青森県子育てメイト 研修会活動事例報告集」に「弘前市・中道幸子さん」・「黒石市・丹羽英子さん」の事例発表として収録されているので、そこでここでは、「Ⅲ」の「子育てメイトの子育て支援の活動方法とその内容」において、一部、関連的に考察を試みている子育てメイトの子育て支援の活動の実際と重複をしないように、これら中道幸子と丹羽英子両氏の事例発表を中心にして、子育てメイトの子育て支援の活動の実際を紹介することにしたい。

「弘前市・中道幸子さん

弘前市のメイトは116名、290人から半分以下になったものの、最近になって少しずつ増えています。弘前市では、小学校の学区に沿って、それぞれの地域性を活かして活動しています。主な活動をご紹介しますと、大成小学校区では、ふれあい広場を通じての親子との交流、栄養士の講話や保健師と協力しての育児相談などを実施しています。北小学校区では、親子交流会での親子体操、ミニ運動会などを実施しています。和徳南小学校区では、ふれあいサークルひまわりでの活動、子育て情報誌の発

刊などを実施しています。藤代小学校区では、青りんご・紅りんごベビーサークルのサークル活動を実施しています。これらの活動の他に、弘前市の特色としては、月に一度各地区で児童館を開放し、メイトが交流したり、母親同士で仲間づくりをしてもらう場になっています。今まで10年間にわたり活動してきて、その活動は地域に密着したものになってきています。10年間の活動で、各メイトの年齢層が高くなっているものも事実であり、今後若い年齢層のメイトをいかに確保し、機動力に結びつけていくかという点が課題だと思っています。」(「平成18年度青森県子育てメイト 研修会活動事例報告集」)

弘前市子育てメイト連絡協議会長中道幸子氏は、弘前市の「小学校の学区に沿って、それぞれの地域性を活かした」子育てメイトの子育て支援の活動の実際について、大成小学校区のふれあい広場の活用、北小学校区の親子交流会、和徳南小学校区と藤代小学校区のサークル活動、そして「月に一度各地区で児童館」の活用など、子育てメイトの10年間の活動を事例発表して、「その活動は地域に密着したものになってきてい」と報告している。

子育てメイトの「ふれあい広場」の活用と活動については、青森市の子育てメイト斎藤麗子氏が「東部地区のほかの方達は、…定期的ではないんですが、メイト広場を開いたりして活動してい」る、そして同じ青森市の子育てメイト林洋子氏は、「大野地区で開催している子育て広場」について、「子育て広場は年4回、未就学児童を対象にして、大野市民センターを会場に、今年度は6月、9月、12月、3月に計画し、実行しております。」と、次のように事例発表をしている。

「大野地区で開催している子育て広場について報告いたします。子育て広場は年4回、未就学児童を対象にして、大野市民センターを会場に、今年度は6月、9月、12月、3月に計画し、実行しております。開催するにあたって、どのようなプログラムにするかメイトで相談し、決定しています。メイトがボランティアになってから、大野地区だけでなく、もっと輪を広げたいと思い、他の地区のメイトにも呼びかけたところ、沢山集ってくださいました。日時やプログラムが決まったら、子育て広場のチラシ、このチラシです。いつも変わらないヒヨコの絵です。子育て広場のチラシを各メイトが知り合いやご近所の方に配布したり、電話で呼び掛けたりしております。広場の参加者が1番多かった時は、親子で70名以上の時もありました。子育て広場は、30分くらいメイトで遊ぼうで自由遊び。ちょっとお母さんから離れられないお子さんもいますが、経験豊富なメイトですので、あやし方、遊び方はお手のものです。その後、絵本や紙芝居の読み聞かせ、おやつタイムで一息ついて、親子での手作り教室や、リトミックで遊んでいます。12月には、クリスマスを計画しております。今年のクリスマスのおやつタイムに、サンタさんがプレゼントを持って登場した時、子ども達が大はしゃぎでした。サンタさんの衣裳は予算がありませんので、格安な所を見付けました。3月は、もうすぐ春ということのを念頭に置きながら、おひな様を中心にした計画を立てております。」(「平成18年度青森県子育てメイト 研修会活動事例報告集」)

そして、同じく青森市の子育てメイト佐久間京子・高田万里子・出崎真理・宮川春子・三上真紀子の5氏は、「西部地区の子育てメイトは、年に4回、3月、6月、9月、11月と、三内児童館において、子育てメイト広場を開催いたしております。……その中の一部をご紹介します。腹ペコ青虫です。腹ペコ青虫。エリック・カール作、森下氏訳。おや、葉っぱの上に小さな卵。お月様が空から見て言いました。お日様が昇って、温かい日曜日の朝です。ポンと卵からちっぽけな青虫が産まれました。青虫は、お腹がペコペコ。青虫は、食べる物を探し始めました。(歌と絵本の読み聞か

せの実演をしてくださいました。)」と「その中の一部を」活動報告している。また、青森県五戸町の子育てメイト金澤和子氏は、五戸町子育てメイトの「子育て支援ルーム」の活動内容を、次のように報告している。

「…平成13年度からは子育て奮闘中の親子が楽しめ、気分転換と友達作りの場を提供することを目的として『子育て支援ルーム』を開設いたしました。その中で春の親子クラブ『ひなまつり会』、夏の親子クラブ『たなばたまつり』、冬の親子クラブ『クリスマス会』の大きな行事を計画し、それを実行に移しました。もうすぐ20回を迎えることとなります。はじめはどうなることやらと心配しておりましたが、思いの外たくさん親子が集まり、喜んで下さっております。手探り状態で始めた親子クラブも回を重ねるごとに中味も充実してきているように感じます。『楽しかった。』、『次回楽しみにしています。』、『おかげで外にでられるようになった。』というお母さんの声、あるときは『こんにちは、復活しました。私のこと覚えていますか？』と次のお子さんを連れてうれしそうに集まりに来てくださったかたもあり、かえって、こちらの方が幸せをいただいているなど感じさせられております。」(『平成18年度青森県子育てメイト 研修会活動事例報告集』)

更に、青森県三沢市の子育てメイト川村和子氏は、「これはアメリカ、日本、フランスの子ども達の集まり」である「マルチリンガルの広場」の活動の目的と様子について、次のように報告している。

「それと、『マルチリンガルの広場』というものを開設いたしました。これはアメリカ、日本、フランスの子ども達の集まりです。メイトは子どもと遊んであげているので、お母さん達もとても楽な気持ちで、打ち解けていました。そのときに、お茶会をしました。これは日本の伝統のものをなるべく沢山の子ども達に教えましょうということが目的だったのですけれども。本当にお部屋に入るマナーから全部やらせたんですね。いつもだったらすごい臆白な子ども達も、きちんと正座して、行儀良く作法を学んでくれました。」(『平成18年度青森県子育てメイト 研修会活動事例報告集』)

この三沢市の子育てメイト川村和子氏の活動報告は、1つには、子育てメイトが「アメリカ、日本、フランスの「子どもと遊んであげているので」、「お母さん達もとても楽な気持ちで、打ち解けていること、二つには、「お茶会」を開いて、日本の伝統を外国のお母さん方と一緒に、「沢山の子ども達に教え」たところ、「いつもだったらすごい臆白な子ども達も、きちんと正座して、行儀良く作法を学んでくれた」こと、など子育てメイトの国際化時代の子育て支援の在り方を示していて興味が深い。

そして中道幸子氏が子育てメイトの活動事例の1つとして挙げている「地域に密着した」10年間の「サークル活動」と弘前市・青森市・八戸市・つがる市・野辺地町・黒石市などの「児童館（福祉館・公民館）」の活用の実際については、「平成18年度青森県子育てメイト 研修会活動事例報告集」に、次のように事例発表されている。

「(弘前市) 藤代小校区では、青りんご・紅りんごベビーサークルのサークル活動を実施しています。」(弘前市・中道幸子さん)

「(青森市) 第2月曜日にほろがけ福祉館で、10時から12時までお母さんと赤ちゃんを集めて遊ばせているという、そういう会を開催しています。最初のうちは、3か月くらいでしたか、誰も来てくれなくて、これはやっぱり宣伝が足りなかったのかなと思って、ポスターを作ったりして一杯貼って、そしたら2人とか3人とか集まってくれました。1年目のうちは本当に、5人くらい来るのが良いところで、これで良いのかと思いましたが、段々経っていくうちに、町内会の会長さんから、予算を組んでいただきまして、毎月おやつ代にしてくださいということで、3,000円ずつ出してくださいと

になりました。そんなに集らない時はお菓子も掛からないので、少しずつ貯まったので、おもちゃとか、遊び用具とか、紙芝居とか、本とか、そいいうものを買わせていただいて、少しずつそういうものが増えていったと同時に、やっぱり子ども達も来ても何も遊ぶ物が無いよりは、やっぱり何か遊ぶものがある。そして、倉内さんが紙芝居を借りてきて読んでくれる。それから、本を読んであげたりとか。そうしているうちに段々集まりまして、今は20人くらい、毎月1回なんですが来てくるようになりました。」(青森市・斎藤麗子さん)

「(青森市) また、大野地区には、安田に児童館がありますので、月2回児童館で安田のメイトを中心にカンガルー広場を開催しております。」(青森市・林洋子さん)

「弘前市の特色としては、月に一度各地区で児童館を開放し、メイトが交流したり、母親同士で仲間づくりをしてもらう場になっています。」(弘前市・中道幸子さん)

「(八戸市) 年間の(柏崎すくすくサロン) サロンの開催回数は10回です。柏崎公民館を会場に、毎月第4月曜日の10時から12時まで開催しています。参加者は、平成17年度は、親子で455名、平成18年度は336名の参加がありました。日程やプログラムについては、メイトを『企画担当』『おやつ担当』に分け、ローテーションで役割を分担しております。スケジュールは、自由遊び、保健師さんのお話、絵本の読み聞かせ、その日のテーマ、おやつ、フリートーク(情報交換、育児相談等)となっております。その日のテーマは、月別に決まっており、例えば、4月は色紙に鯉のぼりと兜をつくろう、9月はお月見、11月はクリスマス、2月は雛祭りなどとなっております。」(八戸市・中屋敷幸子さん)

「つがる市では、児童館を利用した子育て支援センター事業に協力しています。内容は、身近な食材でおやつを作って試食し、食育への関心を深めていただく『おやつ作り』や読み聞かせを通して親子でいろいろな絵本にふれながら、絵本に親しんでいただくための『絵本の読み聞かせ会』や、育児についての悩みや相談をお受けする『育児相談』などを行っています。」(つがる市・伊藤ヒデさん)

「(野辺地町) 来年度からは、町の公民館で実施している子育て支援のボランティア活動とかサロン等に活動を移していきたいと考えております。」(野辺地町・笹森敦子さん)

更にこれらの子育てメイトにおける子育て支援の活動の在り方について、弘前市の中道幸子氏が強調する、弘前市における子育てメイトの子育て支援の「地域に密着した」活動の重要性と共に丹羽英子氏は、「地域に定着」した子育てメイトにおける子育て支援の活動の実際について、次のように報告している。

「黒石市・丹羽英子さん

黒石市の子育てメイトは98名から現在45名に減少しましたが、残っているメイトさんは皆士気も高く、心強く思っています。黒石市のメイトの活動は、年間40回くらい活動しています。その主な活動をご紹介します。こみせ通りで「メイトの広場」を、通称『こみせでメイト』と言っておりますが、私たちメイトが主催して行っております。動物を型どったペンシルバルーンをプレゼントしたりして、親子間の交流を図っています。市や社会福祉協議会主催の行事に参加し、託児所を開設したり、学校参加日に託児所を開設しています。学校の参観日の託児所は、保護者が先生と面談している間に、メイトが子どもを預かっています。毎回20人ほどの利用があります。母親からは、子育てに関するちょっとした愚痴や、子どものことで心配に思っていることなど、自然な形でメイトと話をしています。メイトとしては、母親の気持ちも楽になった様子が感じられ、メイト自身も聞き上手になれたような感じを受けています。メイトの活動は地域に定着しており、メイトもやる気満々ですので、今後とも市

と連携してこれまでどおりの活動を続けていくこととしています。」(『平成18年度青森県子育てメイト 研修会活動事例報告集』)

ここに明らかなように、丹羽英子氏は、黒石市における「年間40回くらい」の子育てメイトの子育て支援の活動の実際について、「メイトの広場」(通称『こみせでメイト』)の主催、黒石市や学校などの行事の開催日における託児所の開設など、黒石市の子育てメイト45名の子育て支援活動の実際を事例発表して、「メイトの活動は地域に定着しており、…今後とも市と連携してこれまでどおりの活動を続けてい」きたいと報告している。弘前市の子育てメイト中道幸子氏も報告している「それぞれの地域性を活かした」親子交流会については、丹羽英子氏は、「メイトの広場」(通称『こみせでメイト』)において、「私たちメイトが主催して、……動物を型どったペンシルバルーンをプレゼントしたりして、親子間の交流を図ってい」る。この子育てメイトが主催する親子交流会については、『平成18年度青森県子育てメイト 研修会活動事例報告集』には、次のような活動事例が示されている。

「子育て広場は、……その後、絵本や紙芝居の読み聞かせ、おやつタイムで一息ついて、親子での手作り教室や、リトミックで遊んでいます。」(青森市・林洋子さん)

「北小学校区では、親子交流会での親子体操、ミニ運動会などを実施しています。」(弘前市・中道幸子さん)

「『子育て支援ルーム』その中で春の親子クラブ『ひなまつり会』、夏の親子クラブ『たなばたままつり』、冬の親子クラブ『クリスマス会』の大きな行事を計画し、それを実行に移しました。もうすぐ20回を迎えることとなります。」(五戸町・金澤和子さん)

「(五所川原市)金木地区の活動は、……親子ふれあいの日への参加や、メイト同士で情報交換会などを行っております。」(五所川原市・古川亮子さん)

「その事業(ブックスター事業)と併行して、親子クッキングも始めました。参加された親子からは『楽しかった』とか、『おいしかった』とか、『野菜ぎらいが治る』とか、そういう感想が得られました。」(野辺地町・笹森敦子さん)

このように、子育てメイトの「それぞれの地域性を活かした」親子交流会においては、親子での手作り教室、リトミック、親子クラブ(春の『ひなまつり会』、夏の『たなばたままつり』、冬の『クリスマス会』)、親子クッキングなど、様々な子育て支援活動が行われている。

そして、中道幸子氏は、子育てメイトの現状と課題について、「10年間の活動で、各メイトの年齢層が高くなっているものも事実であり、今後若い年齢層のメイトをいかに確保し、機動力に結びつけていくかという点が課題だと思っています」と指摘している。そして中道幸子・丹羽英子の両氏が一緒に指摘しているように、「身近な子育てサポーター」としての子育てメイトの減少、即ち「弘前市のメイトは116名、290人から半分以下になり、黒石市の子育てメイトは98名から現在45名に減少していることも、「地域で信頼される子育てメイトとして、より一層の積極的な活動(音喜多誠氏)」を展開するためには、今後の大きな課題となっているのである。子育てメイトの減少が今後の重要な課題となっていることは、青森県つがる市の子育てメイト伊藤ヒサ氏が「今後の課題として、メイトの減少や、活動費の問題等がある」と強調していることから容易に知れるであろう。更に青森県三沢市の子育てメイト川村和子氏は、子育てメイトの今後の課題として、「本当に問題なのは、まだまだ地域の中で孤立している親子とか、それから地域の中にとけ込んでいけない親子」の子育て支援であると、次のように指摘している。

「いろんな活動を通して、思うことは、サークル活動とかちびっ子広場集ってこれる親子というのは、本当に問題がなくて、本当に問題なのは、まだまだ地域の中で孤立している親子とか、それから地域の中にとけ込んでいけない親子が沢山いるんじゃないかなと。これからもメイトとしての意識を持って頑張っていきたいと思います。」(『平成18年度青森県子育てメイト 研修会活動事例報告集』)

更に青森市の子育てメイト斎藤麗子氏は、「会場」と共に「活動の日時の確保」も「やっぱり課題として考えてみないといけない」と次のように注意を促している。

「ずっと、そのくらいの活動なんですが、何か続けていければいいなとは思っております。ほかの東部地区の方でメイトをやっている方達は、やっぱり会場を確保するのが難しいらしいんです。何人も集まるといったら、そういう福祉館とか、そういう所を借りなければいけないわけです。そういう所は、相当予定が詰まっております、スケジュールが一杯で、空いている所を借りるだけでも毎月大変な思いをするらしく、そこに同じ日に決まっていれば集まって来れるんでしょうけど、毎回曜日が違ったりすると、来るお母さん方も赤ちゃん達も大変なわけです。だから、そういう所の確保というものも、やっぱり課題として考えてみないといけないのではないかと思っております。」(『平成18年度青森県子育てメイト 研修会活動事例報告集』)

## V 青森県子育てメイトから弘前市子育て支援員の活動へ

このように少子化が進む中で、地域の親の手助けをしてきた子育てメイトは、1997(平成9)年8月に青森県が県内各地に配置された3000名の子育てメイトを「非常勤職員に位置付け、年間八千円の活動報酬を出していた」(『東奥日報』2006(平成18)年)財政支援を2007(平成18)年度から廃止することによって、例え、青森県が子育てメイトの「財政補助は廃止するが(地域のメイトの)支援は続ける」と強調したとしても、若い母親の育児相談に乗る子育てメイトは、事実上、廃止されるのである。この青森県による青森県子育てメイトの財政支援の廃止の事由については、「(青森)県は〇五年度、『児童福祉法改正で子育て支援の主体が市町村に移行した』として活動報酬をゼロとし、身分もボランティアに見直し」たこと、しかも子育てメイトの「人数は半分以上減り、現在は七町村ではない」ことなど、二つの理由を挙げている。そして青森県こどもみらい課は、青森県子育てメイトの「財政補助は廃止するが(地域のメイトの)支援は続ける」、「地域のメイト」の支援理由について、子育てメイトの「支援に積極的な市町村もあり、今(二〇〇七(平成十八)年)も三十三市町村の約千人が登録」していること、子育てメイトの「〇五年度の活動は集会所や健診での母親との交流など五万二千四十件に上った」ことの二つをあげている。しかしながら、この「地域のメイト」としての青森県独自の子育てメイトは、児童福祉法の改正で「子育て支援の主体が市町村に移行」されたこと、そして子育てメイトの「身分もボランティアに見直し」たことなどが大きな事由となって、結局は、地域全体で子育てを支援する青森県の「身近な子育てサポーター」として大きく期待されながらも、「子育てメイトは、地域社会にとって大きな支えとなっている(三村知事)」にもかかわらず、極めて残念なことであるが廃止されることになるのである。そして、平成19(1997)年、この青「各地域で子育て家庭などを支援してきた『青森県子育てメイト』の制度が今年度改正され、(子育て)メイトの認定・登録がなくなったのを機に」、「子育て支援の主体が市町村に移行」され引き継がれることに

なる。そこで、ここでは、「子育て支援の主体が市町村に移行」されたことに伴い、市町村が「子育て支援の主体」として「今後も子育てに関する支援活動を継続するため」に創設した事例として、青森県弘前市独自の「子育て支援員制度」について見てみることにしたい。

青森県弘前市においては、青森県子育てメイトの子育て支援を引き継いで、「(弘前)市では今後も子育てに関する支援活動を継続するため、子育て支援員という名称で新たに認定・登録」(「広報ひろさき 平成19年8月1日号」)を始め、「(弘前)市では今年6月、各地域の子育て家庭などを支援するため、『弘前市子育て支援員』を90人認定」している。青森県弘前市では、「現在(平成19年8月1日)23地区に90人の子育て支援員がボランティアとして活躍し、それぞれの地区で、気軽に相談できるフレンドリーな相手として子育て支援をしてい」る。そして「子育て支援員は、次のような活動を行っている」る。

「● 子育てに関する不安や悩みの相談

● 公民館などを利用し、子育て家庭の親子と遊んだり、コミュニケーションを図る

● 他の機関と連携した子育て支援の基盤づくり」(「広報ひろさき 平成19年8月1日号」)

「● 主に未就学児童のいる家庭を中心に、家庭訪問などを通して、子育てについての不安や悩みについて、話し相手になったり、子育てに関する情報を提供をします。」(弘前市による子育て支援情報)

これらの子育て支援員の活動を積極的に推進するために、青森県弘前市は、「平成20年3月 弘前市次世代育成支援行動計画」の「第四章 施策の展開」の中で、子育て支援員への活動支援を、「今後は、家庭児童相談をはじめ関係機関等が実施する各種相談業務の充実を図るとともに、子育て支援員の活動支援及び地域子育て支援センターの機能充実に努め」ると共に、「また、子育て支援に関する情報が必要ときに、気軽に手に入れることができるよう、その提供の方法について、研究・検討するとともに、子育て支援員・主任児童委員をはじめ、地域住民のボランティア等の活用とそのネットワーク化を検討します」と策定して、次のように、「具体的施策」と「内容」の施策を展開している。

「基本目標 1 地域における子育て支援 I 家庭での保育を対象とした子育て支援具体的施策

具体的施策	内 容	担当課
子育て支援員への活動支援	<p>子育ての不安や悩みを身近なところで軽減できるよう、子育てに関する相談及び支援活動等を行う「子育て支援員」を認定・登録し、その活動を支援します。</p> <p>また、民生委員・児童委員、主任児童委員をはじめ社会福祉協議会、町会連合会等関係機関の理を得、子育て支援員が活動しやすい環境をつくるため、積極的な情報提供します。</p>	児童家庭課
児童館・児童センターにおける親子の広場の開設	<p>家庭で子育てに当たる保護者の負担を軽減するため、児童館・児童センターを就学児童が利用していない午前の時間帯に開放し、親子のふれあいや子育てをする親同士の交流の場を提供します。</p> <p>児童館・児童センターの児童厚生員等は、地域の子育て支援員の協力を得て、保護者の主体的な交流を支援しながら、必要に応じて情報提供や相談に応じます。</p>	児童家庭課

なお、「基本目標 7 要保護児童への対応などきめ細かな取り組みの推進」における「I 児童虐待防止対策の充実」の「2 相談活動等の充実」の中に「具体的施策」として挙げられている「子

育て支援員への活動支援」と「児童館・児童センターにおける親子の広場の開設」の「内容」は、上記の「基本目標 1 地域における子育て支援 I 家庭での保育を対象とした子育て支援」の内容と同様である。更に弘前市は、平成20年1月の「弘前市総合計画―自然と共に生きる豊かな産業・文化都市―」の「政策2 人とふれあい、人が輝く健康のまちづくり」の中の基本事業「子育て相談の充実」として「子育て支援員の設置事務」を策定している。この地域の子育てを支援する子育て支援員の認定・登録資格は、「子育ての経験があり、地域の子どもたちの健全育成に熱意のある人」（「広報ひろさき」）となっている。このように青森県弘前市の地域の子育てを支援する弘前市子育て支援員制度が、青森県子育てメイトの子育て支援を引き継いで子育てに関する支援活動を推進していることは明白であろう。弘前市子育て支援員は、青森県子育てメイトの継続して子育て支援の基盤をつくり地域社会にとって大きな支えとなっているのである。

最後にこの「地域における子育てメイトの活動～子育て支援を中心に～」の「まとめ」に代えて、「平成18年度 青森県子育てメイト 研修会活動事例報告集」から、青森県独自の子育て支援制度として、子育てメイトの約十年強に亘る青森県子育てメイトの子育て支援活動の意義と成果について述べた言葉を、多少重複する部分もあるが、ここに紹介して「終わり」にしたい。

「私達メイトの活動は、地味ですぐ結果が出るようなものではありませんが、少しでも情緒豊かな元気な明るい子どもが育つように、そして、お母さん達の子育ての悩み、不安を幾らかでも解消できるように協力していきたいと思って頑張っております。」（青森市・林洋子さん）

「親子との触れ合い、サポーター同士との触れ合いを通し、自分を向上させ、活力をいただいています。会えることの楽しさ、お喋りすることの有意義さをモットーとして、これからもほのぼのとした関係を大切に頑張っていきたいと思っております。」（平内町・本堂順子さん）

「今まで10年間にわたり活動してきて、その活動は地域に密着したものになってきています。10年間の活動で、各メイトの年齢層が高くなっているのも事実であり、今後若い年齢層のメイトをいかに確保し、機動力に結びつけていくかという点が課題だと思っています。」（弘前市・中道幸子さん）

「メイトの活動は地域に定着しており、メイトもやる気満々ですので、今後とも市と連携してこれまでどおりの活動を続けていくこととしています。」（黒石市・丹羽英子さん）

「私たち五戸町子育てメイトのモットーは、自分の出来る時、出来る事を、できる分のボランティア、そして自分自身が楽しもう、ということで、本当に気持ちよく活動させていただいております。今後ともそのモットーを大切に活動を続けていけることを願っております。」（五戸町・金澤和子さん）

「今後とも今の状態をできるだけ継続できるよう、私たちメイトも気張らずお母さん方と楽しみながら子育て支援を続けていきたいと思っております。」（五所川原市・古川亮子さん）

「また、市が実施している『家庭教育支援総合推進事業』に応援スタッフとして協力しています。今後の課題として、メイトの減少や、活動費の問題等がありますが、これまでの経験を踏まえて、より地域に根ざした活動を行っていきたいと考えております。」（つがる市・伊藤ヒサさん）

「いろんな活動を通しながら、思うことは、サークル活動とかちびっ子広場に集ってこれる親子というのは、本当に問題がなくて、本当に問題なのは、まだまだ地域の中で孤立している親子とか、それから地域の中にとけ込んでいけない親子が沢山いるんじゃないかなと。これからはメイトとしての意識を持って頑張っていきたいと思います。」（三沢氏・川村和子さん）

「来年度からは、町の公民館で実施している子育て支援のボランティア活動とか子育てサロン等に

活動を移していきたいと考えております。いつまでもボランティア精神を忘れないで、未来ある子ども達のために少しでも一緒に活動していきたいと思っております。」（野辺地町・笹森敦子さん）

「6年に亘るたくさんの出会いの中には、いろんなドラマがあり、思いの深い出会いがありました。お母さん方の『ありがとう』と、泣いても、笑っても、怒っても可愛い子ども達の姿が私たちの背中を押してくれました。そして、多くの皆さんとの出会いの中で、私たちもまた、育てられた事を実感し、嬉しく思っています。」（むつ市・出崎陽子さん）

青森県子育てメイト連絡協議会会長千田泰子氏は、「親が子どもを想う、そういう気持ち、命を大切にしなければならない、そういう気持ちでこの約10年間活動してまいりました。」と、「平成9年に発足して以来」の子育て支援活動の意義と成果について力説して、「今後とも、これまで以上に子どもが健やかに伸び伸びと育ち、優しい、温かい気持ちで育つよう地域でがんばりたいと思って」と、青森県子育てメイトとしての誇りと自信と覚悟の程を示している。

「さて青森県子育てメイトが平成9年に発足して以来私たちメイトは、活動が異なっても、あるいは表現が異なっても、親が子どもを想う、そういう気持ち、命を大切にしなければならない、そういう気持ちでこの約10年間活動してまいりました。今後とも、これまで以上に子どもが健やかに伸び伸びと育ち、優しい、温かい気持ちで育つよう地域でがんばりたいと思っております。」

地域社会にとって大きな支えとなっている青森県子育てメイト制度が、児童福祉法の改正で「子育て支援の主体が市町村に移行」されたとは言っても、平成18年度一杯を以て廃止されたことは、福祉日本一を目指していた青森県民にとっては極めて残念なことである。

## 引用・参考文献

1. 野口伐名「地域における子育てメイトの活動Ⅰ～子育て支援を中心に～」、弘前学院大学大学院『社会福祉学研究第三号（2009.3）』所収
2. 青森県健康福祉部こどもみらい課『子育てメイト活動マニュアル（平成15年3月）』
3. 「東奥日報」1997（平成9年）8月5日付
4. 青森県健康福祉部児童家庭課『子育てメイト活動マニュアル（平成11年2月）』
5. 青森県健康福祉部こどもみらい課『平成18年度 青森県子育てメイト 研修会活動事例報告集』
6. 平成18（2006）年9月8日付陸奥新報
7. 弘前市『広報ひろさき 平成19年8月1日号』
8. 野口伐名「育児不安についての子育て支援の在り方と社会福祉の課題」、弘前学院大学社会福祉学部『社会福祉教育研究所年報（創刊号）平成16年3月』
9. 野口伐名『野口伐名子育て支援・保育・教育・福祉論集』
10. 上記の引用・参考文献の他にも、この小論を作成するに当たり、多くの先学の優れた研究成果を拝借し援用させていただいたことを深く感謝申しあげたていと思ひます。